

住民が安心して住み続けられるための地域医療を！
地域医療を守る共同行動
みやぎ連絡会
News

2023.7.14.FRI No.145

発行／地域医療を守る共同行動みやぎ連絡会事務局
 〒983-0047 仙台市宮城野区銀杏町39-18（民医労内）
 TEL 022-782-0633／FAX 022-782-0634

MIYAGI
 みやぎ県政だより

令和5年
 [2023年]
7・8
 月号

**県立精神医療センター『外来』を巡る
 <危険な兆候>**

新病院が担う機能

| 新たな東北労災病院 | |
|-----------|----------------------------------|
| 救急医療 | 救急医療の機能を強化し、仙台医療圏北部の救急搬送時間の短縮に貢献 |
| がん医療 | がん診療連携拠点病院(※1)として、地域のがん医療充実に貢献 |
| 災害医療 | 黒川地区初の災害拠点病院として貢献 |
| 新興感染症対応 | 新型コロナウイルスのような新しい感染症に対応 |

| 新たな県立精神医療センター | |
|--|---|
| 主な機能 | 精神科救急医療、身体合併症対応、児童・思春期精神科医療、地域包括ケアシステム、災害時の精神科医療体制の確保、研修機能の充実 |
| <p>新病院：合築</p> <p>東北労災病院 → 県立精神医療センター → 新病院</p> <p>2病院の連携により身体合併症への対応力が向上</p> | |

| 仙台赤十字病院と県立がんセンターの統合による新たな病院 | |
|---|--------------------------------------|
| 救急医療 | 救急医療の機能を強化し、仙台医療圏南部の救急医療体制の強化に貢献 |
| 周産期医療 | 総合周産期母子医療センター(※2)の機能を引き継ぎ、県の周産期医療に貢献 |
| がん医療 | がん診療連携拠点病院(※1)として、東北大学と補完・連携を進める |
| 災害医療 | 災害拠点病院として貢献 |
| 新興感染症対応 | 新型コロナウイルスのような新しい感染症に対応 |
| <p>新病院：統合</p> <p>仙台赤十字病院 → 県立がんセンター → 新病院</p> | |

※1 全国どこでも質の高いがん医療を提供するため厚生労働大臣が地域ごとに指定した病院
 ※2 リスクの高い妊娠に対する医療や高度な新生児医療を提供する施設（現在、県内には東北大学病院と仙台赤十字病院の2カ所のみ）

前号に掲載した「みやぎ県政だより」について、4病院再編問題が4ページにわたり特集が組まれています。P6の「新病院が担う機能」として、名取市の新病院には『精神外来』は掲載されていません。現在<協議中>ということもありますが、県の考えについて危険な兆候とならなければいいのですが…。



宮城県知事記者会見
(2023年7月10日)
「県内4病院の再編について」
<https://youtu.be/wCkAga550Kk?t=2088>

● Q／ 4病院の再編で確認させていただきたいが、南の患者の方々とお会いするということと、北の患者の方々とはお会いしたというところもあったが、南の患者の方々ととの協議の進捗状況が今どのようになっているかということと、北の方々はお会いになられたということだが、そちらの方面の方々とさらに広げてお会いするということなのか、また、スケジュール感的にいつ頃までにそれを実現させたいと県としてはお考えなのか、それらの件について伺う。

■ 村井知事／ 南の患者さん、北の患者さんとも、あれ以来特に何か進展があるわけではありません。私は、お会いしたいという方が来られれば、私だけではなく、副知事や部長や担当、いろいろな職員が会ってお話をお聞きするということが非常に重要だろうと思っています。

ただ、まだ具体的なものが出ていないんですね。ですから、話し合うにしてもまだバクツとした不安であるとか困ります、その程度の話しかないので、もう少し話が煮詰まってから詰めていかなければいけない。患者さん一人一人状況が違いますので、特に精神疾患の患者さんですから、まとめてというよりも、個人個人かなり差がありますから、一人一人やはり患者さんに当たっていかなければいけないだろうなと思っています。そのためにも、もう少し具体的な話が煮詰まってから、こういう状況なんですけどどうでしょうかという形で話を詰めていきたいなと思っています。いずれにせよ、全ての患者さんというか、主立った患者さんには一人一人相談に乗っていかなければいけないんじゃないかなと思っています。

● Q／ そうなってくると、確認になると思うが、当初6月議会までにお話をしたいというときのお話と、今のお話だとやはり基本合意をされた後のほうがいいんじゃないかという、ちょっと何か違いが出てきたのではないかと思うが、それは、やはりこれまでの患者さんの方々ととの議論を踏まえて、やはり基本合意がなければ患者さんとの具体的な意見交換ができないという判断に変わったということか。

■ 村井知事／ いいえ、6月議会までは、議会のほうで患者さんと会ったらどうだという話がありましたので、会ってまずいろいろお話を聞きますということでアプローチをしたんですが、南の患者さんは会いたくない、会えないという方が多かったので、残念ながら会えなかったということですよ。それから、北の患者さんは会っていいですよということで、会ってお話を伺うことができたということです。そういう話し合いを、だいたい皆さん同じようなご意見でしょうから、バクツとした不安であるとかバクツとした賛成でしょうから、これを二度三度やるよりも、もう一段階、二段階進んでより話が煮詰まってきた段階でこういう状況なんですということで、問題があればそれをまたさらにちょっとずつ改善をしていくということをやったほうがいいのではないかと考えておりますので、決して考え方が変わったわけではない。

● Q／ 説明のアプローチは継続して行っていて、具体的な協議はやはり基本合意の後ということになるということか。

■ 村井知事／ そうですね、はい。決して会いたくないわけではないんですけども。